

平成29年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔医学部（保健学科 作業療法学専攻）〕

| | |
|---|---------------------------------|
| プログラムの名称（和文） | 作業療法学プログラム |
| （英文） | Program of Occupational Therapy |
| <p>1. 取得できる学位 学士（保健学） 131単位以上（教養的教育科目40単位以上，専門基礎科目26単位以上，専門科目62単位）</p> | |
| <p>2. 概要 保健学科作業療法学専攻が提供する教育プログラムは，学生が，将来，医学・医療・保健・福祉等の分野で作業療法士として貢献し，作業療法学の発展に寄与できるよう，卒業時に学習の成果（項目8）で挙げている基本的知識，基本的技能および基本的態度・習慣の全項目を習得することを目標とする。</p> | |
| <p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 作業療法学プログラムでは，専門職の作業療法士としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。そのため，本プログラムでは，幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断能力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指した教養教育課程の定める基準となる単位数を修得し、且つ以下の能力を身につけ、専門教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（保健学）」の称号を授与する。</p> <p>1) 作業的存在としての人間を探求し、ひとが作業を通して健康で幸福な生活を行うための種々の理論や技術を獲得している。</p> <p>2) 作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え、作業遂行の課題を的確に捉え、その解決のために広範な知識を統合できる能力を身につけている。</p> <p>3) 専門職として、人々の権利や主体性を尊重し、臨床における倫理的、誠実的、共感的、献身的な態度を有し、他職種との協力や専門職発展への献身などにも対応できる能力を身につけている。</p> <p>4) 国際社会および地域社会の変化に対して対応できる、また常に科学的な思考を持って臨床場面で生じる課題と向き合う基礎的な能力を備えている。</p> <p>5) 変化する社会的ニーズを的確に捉え、生涯にわたって自らの知識、技術、態度を評価し、自ら学び続ける創造的な姿勢と習慣を身につけることができる。</p> | |
| <p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 作業療法学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。</p> <p>・1年次には、教養教育科目を通して教養、基礎学力の醸成を行うと同時に、「作業療法学概論」「作業学総論」、「リハビリテーション概論」などの専門基礎科目の一部を開講し、作業療法的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育む。AO入試制度（大学院進学型）で入学した学生については、1年次より各研究室を見学する時間を設け早期から研究を体験し、研究動機を持った学士課程の履修を図る。</p> <p>・2年次には、作業療法学の学問的背景や基礎となる授業を中心とし、主に「人体構造学」「生理機能学」「運動学」「リハビリテーション整形外科学」「リハビリテーション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」</p> | |

など必修科目を開講し、これらの科目を通して専門分野の基礎知識と技能・態度を修得する。また、国際交流、科学探索、地域交流に関連した科目を選択可能とし、主体的に各領域に特化した基本的な知識や技術を学ばせる。

・3年次には、主に「身体障害作業療法学」「精神障害作業療法学」「発達障害作業療法学」「老年期障害作業療法学」「日常生活活動学」などの専門科目を開講し、作業療法を展開するために必要となる、情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度を修得する。さらに、夏期の短期臨床実習を計画し、学問分野と実務との関連についての理解を深め、より具体的な課題への取り組み方について学ぶことができる。

・4年次には、長期臨床実習を計画している。3年次までの教育課程で学んだ知識、技能、態度と作業療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら作業療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を目指す。同時に、実習を通して対象者や家族、他職種とのコミュニケーションの重要性についても認識を深める。こうした経験を重ねることで、保健・医療・福祉に関わる作業療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、3年次から開始した卒業研究を完成することで、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身に付け、作業療法学の学問として意義と重要性についても学ぶ。

これらのカリキュラム・ポリシーに基づいて設定された学習の成果は、各科目の成績評価と共に各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から作業療法学プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。数学基礎概論，初修物理学，初修生物学の単位を修得すべき者は保健学科において指定する。ただし，卒業要件単位には含まない。AO入試制度（大学院進学型）で選抜された学生は、学士課程卒業に続いて大学院博士課程前期への進学を想定している。広島大学在学の全学の学生に対しては転学部または転学科の規程に基づき別途定める。本プログラムの定員（受け入れ上限数）は30名である。

6. 取得可能な資格

作業療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

授業科目については別紙1の履修表を，シラバスについては「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照。

8. 学習の成果

各学期末に，学習の成果の評価項目ごとに，評価基準を示し，達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4，A=3，B=2，C=1と数値に変換した上で，加重値を加味し算出した評価基準値に基づき，入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」，「優秀(Very Good)」，「良好(Good)」の3段階で示す。

| 成績評価 | 数値変換 |
|-------------|------|
| S（秀：90点以上） | 4 |
| A（優：80～89点） | 3 |
| B（良：70～79点） | 2 |
| C（可：60～69点） | 1 |

| 学習の成果 | 評価基準値 |
|------------------|-----------|
| 極めて優秀(Excellent) | 3.00～4.00 |
| 優秀(Very Good) | 2.00～2.99 |
| 良好(Good) | 1.00～1.99 |

○知識・理解

1. 人体の構造と機能に関する知識・理解
2. 病因と病態に関する知識・理解
3. 保健・医療システムに関する知識・理解
4. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解
5. 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解

○能力・技能

1. 作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探求する能力・技能
2. 作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能
3. 作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能
4. 他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能
5. 作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能
6. 作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能

○総合的な力

1. 保健医療における倫理的判断に基づいた行動力
2. 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力
3. 医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度
4. 科学的かつ創造的な問題解決能力

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

○位置づけ（目的）

それまでに学習した作業療法の総ての知識を応用し、臨床（社会）への貢献について考える（作業療法の臨床的意義の吟味）。あわせて科学的根拠に基づいた問題解決能力を習得し、専門職の質の向上を図る態度と技能を養う（専門性の確立）。

○概要

①作業療法の臨床的意義の吟味

自ら設定したテーマについて文献検索活動を通して、作業療法及び臨床における意義を吟味する。

②科学的根拠に基づいた研究活動の体験・習得

自らの研究テーマに沿って、研究計画立案、研究実施、論文作成、口頭発表という一連の研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、態度、技能を習得する。

○配属時期と配属方法

3年次後期より仮配属し、4年次進級時に本配属となる。配属方法は学生からの研究登録票を基に、学生提出の研究テーマと教員の専門分野を考慮して決定される。

10. 責任体制

P D C A 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

作業療法学専攻会議、保健学科会議とその構成員により実施されている。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科作業療法学専攻

| 区分 | 科目区分 | | 要修得 単位数 | 授業科目等 | 単位数 | 履修区分 | 履修年次(注1) | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|----------------|------------------|---|-------------|------------------|------|-------------|---|-----|---|-----|---|-----|---|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | | | | | | | |
| | | | | | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | | | | | | | |
| 教 養 教 育 科 目 | 教養 コア 科目 | 教養ゼミ | 2 | 教養ゼミ | 2 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 平和科目 | 2 | | 2 | 選択必修 | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | パッケージ別科目 | 6 | 選択したパッケージから | 各2 | 選択必修 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | 共通 科目 | 外国 語 | 英語 (注2) | コミュニケーション基礎 | コミュニケーション基礎Ⅰ | 2 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | コミュニケーション基礎Ⅱ | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーションⅠ | コミュニケーションⅠA | 2 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | コミュニケーションⅠB | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーションⅡ | コミュニケーションⅡA | 2 | 必修 | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | コミュニケーションⅡB | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | | コミュニケーションⅢ | コミュニケーションⅢA | 2 | 選択必修 | コミュニケーションⅢA | 1 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーションⅢB | | | 1 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーションⅢC | | | 1 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | 上記3科目のうちから2科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 初修外国語 (ドイツ語, フランス語, 中国語の うちから1言語選択) | ベーシック外国語Ⅰ | (0) | 自由選択 | ベーシック外国語Ⅰ | 1 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | ベーシック外国語Ⅱ | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 情報科目 | 情報活用基礎 | (0) | 自由選択 | 情報活用基礎 | 2 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 情報活用演習 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| | 領域科目 | 6 | すべての領域から | 1又は2 | 選択必修 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 健康スポーツ科目 | (0) | | 1又は2 | 自由選択 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基盤 科目 | 医療従事者のための心理学(注3) | 4 | 必修 | 医療従事者のための心理学(注3) | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 統計学 | | | | | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 初修物理学 | | 0 | (注4) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 初修生物学 | | 0 | (注4) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 数学基礎概論 | | 0 | (注4) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必修・選択必修科目小計 | 28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自由選択科目小計 | 12 | (注5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教養教育科目合計 | 40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注1 : ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2 : 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習A」及び「オンライン英語演習B」:各1単位(同一科目を重複して単位を修得することは不可)の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(8単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。

注3 : 「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学A」又は「心理学B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な領域科目の単位(2単位)に算入することが可能である。

注4 : 「初修物理学」、「初修生物学」、「数学基礎概論」の単位を修得すべき者は、保健学科において指定する。ただし、卒業要件単位には含まない。

注5 : 自由選択科目は、初修外国語、情報科目、領域科目、健康スポーツ科目、及び基盤科目の中から合計12単位以上を修得すること。ただし、6単位を超えて修得したパッケージ別科目については、4単位までを自由選択科目に含めることができる。

作業療法学専攻プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

| 学習の成果 | | 評価基準 | | |
|-------|--|---|--|--|
| 評価項目 | | 極めて優秀(Excellent) | 優秀(Very Good) | 良好(Good) |
| 知識・理解 | (1) 人体の構造と機能に関する知識・理解 | 各コースにおいて、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明および考察ができる。 | 各コースにおいて、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明および考察ができる。 | 各コースにおいて、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明ができる。 |
| | (2) 病因と病態に関する知識・理解 | | | |
| | (3) 保健・医療システムに関する知識・理解 | | | |
| | (4) 作業療法の学問的背景に関する知識・理解 | | | |
| | (5) 外国語によるコミュニケーションに関する知識・理解 | | | |
| 能力・技能 | (1) 作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探究する能力・技能 | 各コースで行われる講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明および考察ができる。 | 各コースで行われる講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明および考察ができる。 | 各コースで行われる講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明できる。 |
| | (2) 作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能 | | | |
| | (3) 作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能 | | | |
| | (4) 他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能 | | | |
| | (5) 作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能 | | | |
| | (6) 作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能 | | | |
| 総合的な力 | (1) 保健医療における倫理的判断に基づいた行動力 | 臨床実践の場において保健医療の倫理に基づく適切な判断および行動ができる。 | 保健医療の倫理に基づいた適切な判断ができる。 | 保健医療の倫理的判断について理解できる。 |
| | (2) 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力 | 医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む積極的な態度が日常的に見られる。 | 医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む場面が見られる。 | 医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む姿勢・意欲が見られる。 |
| | (3) 医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度 | 医療チームの一員として、他職種と協調的な関係を構築し、積極的にコミュニケーションを取ることができる。また、チームのルールやマナーを守りながら行動できる。 | 医療チームの一員として、他職種と協調的な関係を構築できる。また、チームのルールやマナーを守りながら行動できる。 | 医療チームの一員として、他職種と協調的な態度で接することができる。 |
| | (4) 科学的かつ創造的な問題解決能力 | 1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察できる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。 7. 得られた結果から新たな仮説を立てられる。 | 1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察できる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。 | 1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的な考察ができる。 |

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムは、医学・保健・医療・福祉等の分野において作業療法士として貢献するための専門的知識や技術はもとより、作業療法学の発展に寄与するための幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断能力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けるしなやかで創造的な人材を育成するため、1年次は東千田キャンパスならびに西条キャンパスで他学部の学生と共に教養教育科目を学ぶ。

作業療法学専攻プログラムカリキュラムマップ

| 学習の成果 評価項目 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|--------------------------------------|-----------------|------------------|--------------------|---|---|-------------------------|-------------|---------------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 人体の構造と機能に関する知識・理解 | 初修物理学(△) | 医療従事者のための心理学(○) | 人体構造学II(◎) | 運動学(◎) | | | | 生理学的心理学(△) |
| | 初修生物学(△) | 人体構造学I(◎) | 生理機能学II(◎) | | | | | |
| | 人間発達学(◎) | 生理機能学I(◎) | 生理構造学特論(◎) | | | | | |
| 病因と病態に関する知識・理解 | | 医療従事者のための心理学(○) | 病理学(◎) | リハビリテーション整形外科各論(◎) | 内部障害リハビリテーション学(◎) | | | |
| | | | リハビリテーション内科学(◎) | リハビリテーション神経内科学II(◎) | リハビリテーション精神医学各論(◎) | | | |
| | | | リハビリテーション整形外科各論(◎) | リハビリテーション精神医学総論(◎) | 精神障害学特論(◎) | | | |
| | | | リハビリテーション神経内科学I(◎) | 老年期障害学(△) | | | | |
| 保健・医療システムに関する知識・理解 | | | | 社会福祉学(○) | Global Health and Current Public Health Issues(△) | 救急法及び感染予防(◎) | | |
| | | | | 基礎臨床実習I(◎) | Introduction to Epidemiology and Population Sciences(△) | 保健政策論(○) | | |
| 作業療法の学問的背景に関する知識・理解 | 初修物理学(△) | リハビリテーション概論(◎) | | 作業療法学理論(◎) | | | 国際作業療法学(○) | |
| | 初修生物学(△) | 作業学総論(◎) | | | | | | |
| 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解 | コミュニケーション基礎I(◎) | コミュニケーション基礎II(◎) | コミュニケーションIII A(○) | コミュニケーションIII A(○) | Global Health and Current Public Health Issues(△) | | | |
| | コミュニケーションIA(◎) | コミュニケーションIIA(◎) | コミュニケーションIII B(○) | コミュニケーションIII B(○) | | | | |
| | コミュニケーションIB(◎) | コミュニケーションIIB(◎) | コミュニケーションIII C(○) | コミュニケーションIII C(○) | | | | |
| 作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探究する能力・技能 | | | 保健英語(△) | Introduction to Epidemiology and Population Sciences(△) | | | | |
| | | | 人体構造学実習I(◎) | 生理機能学実習(◎) | | | | |
| 作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能 | | 作業学総論(◎) | 作業技術学演習(◎) | 作業技術学実習(◎) | 応用統計学(△) | 地域作業療法学(◎) | | |
| | | | | | | | | |
| 作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能 | | | | 高次脳機能障害作業療法学(◎) | 日常生活活動評価学(◎) | 在宅日常生活活動学演習(◎) | | |
| | | | | 発達障害作業療法学(◎) | 身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎) | 余暇関連活動学演習(◎) | | |
| | | | | 精神障害作業療法学(◎) | 身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎) | 仕事関連活動学演習(◎) | | |
| | | | | | 老年期障害作業療法学(◎) | 地域作業療法学(◎) | | |
| | | | | | 精神障害作業療法学評価学(◎) | 地域作業療法学演習(○) | | |
| | | | | | 精神障害作業療法学演習I(◎) | 老年期障害作業療法学演習(◎) | | |
| | | | | | 発達障害作業療法学演習I(◎) | 高次脳機能障害作業療法学演習(◎) | | |
| 他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能 | コミュニケーション基礎I(◎) | コミュニケーション基礎II(◎) | コミュニケーションIII A(○) | コミュニケーションIII A(○) | | | | |
| | コミュニケーションIA(◎) | コミュニケーションIIA(◎) | コミュニケーションIII B(○) | コミュニケーションIII B(○) | | | | |
| | コミュニケーションIB(◎) | コミュニケーションIIB(◎) | コミュニケーションIII C(○) | コミュニケーションIII C(○) | | | | |
| | ベーシック外国語I(△) | ベーシック外国語II(△) | 作業療法基礎評価学(◎) | | | | | |
| 作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能 | | 作業学総論(◎) | | | 日常生活活動評価学(◎) | 在宅日常生活活動学演習(◎) | 総合臨床実習I(◎) | |
| | | | | | 身体障害作業療法学演習I(評価法実習)(◎) | 余暇関連活動学演習(◎) | 総合臨床実習II(◎) | |
| | | | | | 身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎) | 仕事関連活動学演習(◎) | | |
| | | | | | 高次脳機能障害作業療法学演習(◎) | 地域作業療法学演習(○) | | |
| | | | | | 精神障害作業療法学評価学(◎) | 身体障害作業療法学演習II(治療法実習)(◎) | | |
| | | | | | 精神障害作業療法学演習I(◎) | 身体障害作業療法学実習II(治療法実習)(◎) | | |
| | | | | | 発達障害作業療法学演習I(◎) | 老年期障害作業療法学演習(◎) | | |
| | | | | | | 高次脳機能障害作業療法学演習(◎) | | |
| | | | | | | 精神障害作業療法学演習II(◎) | | |
| | | | | | | 発達障害作業療法学演習II(◎) | | |
| 作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能 | | | | | 身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎) | 在宅日常生活活動学演習(◎) | 総合臨床実習I(◎) | |
| | | | | | 身体障害作業療法学実習III(上肢機能介入法実習)(◎) | 余暇関連活動学演習(◎) | 総合臨床実習II(◎) | |
| | | | | | 精神障害作業療法学演習I(◎) | 仕事関連活動学演習(◎) | | |
| | | | | | 発達障害作業療法学演習I(◎) | 地域作業療法学演習(○) | | |
| | | | | | | 身体障害作業療法学演習II(治療法実習)(◎) | | |
| 保健医療における倫理的判断に基づいた行動力 | 教養ゼミ(◎) | | | 基礎臨床実習I(◎) | | 基礎臨床実習II(◎) | 総合臨床実習I(◎) | 卒業論文(◎) |
| | 平和科目(○) | 平和科目(○) | | | | 基礎臨床実習III(◎) | 総合臨床実習II(◎) | 職業倫理・職場管理学(◎) |
| | パッケージ別科目(△) | パッケージ別科目(△) | | | | | | |
| | 教養ゼミ(◎) | | | 基礎臨床実習I(◎) | | 作業療法学研究法(◎) | 総合臨床実習I(◎) | 卒業論文(◎) |
| 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力 | パッケージ別科目(△) | パッケージ別科目(△) | | | | 応用作業療法学研究法(○) | 総合臨床実習II(◎) | |
| | | | | | | 基礎臨床実習II(◎) | 総合臨床実習II(◎) | |
| | | | | | | 基礎臨床実習III(◎) | 総合臨床実習I(◎) | |
| | | | | | | 基礎臨床実習II(◎) | 総合臨床実習II(◎) | |
| 医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度 | 教養ゼミ(◎) | | | 基礎臨床実習I(◎) | | 基礎臨床実習III(◎) | 総合臨床実習I(◎) | |
| | パッケージ別科目(△) | パッケージ別科目(△) | | | | 基礎臨床実習II(◎) | 総合臨床実習II(◎) | |
| | | | | | | 基礎臨床実習III(◎) | 総合臨床実習I(◎) | |
| | | | | | | 基礎臨床実習II(◎) | 総合臨床実習II(◎) | |
| 科学的かつ創造的な問題解決能力 | 教養ゼミ(◎) | | | 基礎臨床実習I(◎) | | 作業療法学研究法(◎) | 総合臨床実習I(◎) | 卒業論文(◎) |
| | 平和科目(○) | 平和科目(○) | | | | 応用作業療法学研究法(○) | 総合臨床実習II(◎) | |
| | パッケージ別科目(△) | パッケージ別科目(△) | | | | 基礎臨床実習II(◎) | | |
| | 情報活用基礎(△) | 情報活用演習(△) | | | | 基礎臨床実習III(◎) | | |
| | 社会連携科目(△) | 社会連携科目(△) | | | | 基礎臨床実習II(◎) | | |
| | 健康科目(△) | 健康科目(△) | | | | 基礎臨床実習III(◎) | | |
| 数学基礎概論(△) | 統計学(◎) | | | | | | | |
| 大学教育入門(◎) | | | | | | | | |

(例) 教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎) 必修科目

(○) 選択必修科目

(△) 選択科目

作業療法学専攻プログラム担当教員リスト

| 教員名 | 職名 | 内線番号 | 研究室 | メールアドレス |
|--------|----|---------|---------------|--------------------------------|
| 松川 寛二 | 教授 | 5 4 3 5 | 生理機能情報科学 | matsuk@hiroshima-u.ac.jp |
| 岡村 仁 | 教授 | 5 4 5 0 | 精神機能制御科学 | hokamura@hiroshima-u.ac.jp |
| 砂川 融 | 教授 | 5 4 5 5 | 上肢機能解析制御科学 | torusuna@hiroshima-u.ac.jp |
| 宮口 英樹 | 教授 | 5 4 4 0 | 作業行動探索科学 | hmiya@hiroshima-u.ac.jp |
| 花岡 秀明 | 教授 | 5 4 0 0 | 老年・地域作業機能制御科学 | hhanaoka@hiroshima-u.ac.jp |
| 石附 智奈美 | 講師 | 5 4 0 1 | 作業行動探索科学 | ishizuki@hiroshima-u.ac.jp |
| 金子 史子 | 講師 | 5 4 5 1 | 精神機能制御科学 | kfumi@hiroshima-u.ac.jp |
| 車谷 洋 | 講師 | 5 4 4 1 | 上肢機能解析制御科学 | hkuruma@hiroshima-u.ac.jp |
| 山根 伸吾 | 助教 | 5 4 1 7 | 老年・地域作業機能制御科学 | shingoyamane@hiroshima-u.ac.jp |
| 梁 楠 | 助教 | 5 4 1 2 | 生理機能情報科学 | liangnan@hiroshima-u.ac.jp |
| 遠藤 加菜 | 助教 | 5 4 5 2 | 生理機能情報科学 | kanaendo@hiroshima-u.ac.jp |
| 三木 恵美 | 助教 | 5 4 5 2 | 身体・生活機能制御科学 | mikiemi@hiroshima-u.ac.jp |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））